

酒づくりは米づくり

山田錦栽培指導会報告

新潟・山田錦栽培会 会長 岩淵忠男



生産者通信

NPO法人
米ニケーションセンター
定価 100円(送料込)

7月1日午後3時、エコ・ライスに約20名程が集合して淡路先生から現地圃場で、ご指導をしていただきました。

田植え時期の一番早い中之島町の中島さんの圃場では5月4日植えて37株の疎植植え、生育も早くて茎も太く感心するような出来栄の稲でした。

二番目は新潟町の小林さんの圃場で5月9日植えて50株、植え痛み気味とのことでしたが、好天に恵まれ立ち直ってきていました。

三番目は私の圃場で5月24日植えて50株、遅植えでも茎数は33本になっていて、しかも植え込み本数が多すぎるとのことでした。

5時頃から私の集落集会所で、三圃場の反

◆ 現地指導会での感想

- 酒米は高品質米(心白)生産につとめる。
- 酒米はCN率の高い生育期間を取ることが重要である。
栄養成長期を短く、生殖成長期を長くとることが重要で高品質米生産の原点である。
- 全員の皆さんの高品質米生産の為には、個人個人の肥料設計では品質のムラがでる。(肥料の選択に問題がある)
- 生育転換日の個人差が品質のバラつきになるのではないか。
- 展示圃場では一般主食用米の栽培であった。
- 山田錦の収量構成要素の認識不足。

◆ 反省点

- 1 基肥量が多い
- 2 葉色が濃い
- 3 茎数が多い
- 4 垂れ葉が多い(直立にする)
- 5 CN率が高い(栄養成長期が長くなる)



以上のことから葉が柔らかいような稲にはケイサン質肥料の施用、今後根の活力を保つ(美緑適等)ような管理に努める。

蔵元の求める高品質米作りに努めましょう!

省点と今後の管理について、講義をしていただき、その時の内容について、後日淡

路先生にまとめていただきましたので報告いたします。

追記…8月お盆明けに収穫調整及び、山田錦先進地研修の報告会を開催します。

